

宇都宮市立桜小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題はためになっている」97%、「学習して身に付けたことは将来の役に立つ」100%、「授業を集中して受けている」94%と県や市の平均を上回る数字である。このことは、学習に対して真面目に素直に取り組んでいる伺える。

○「学校からの宿題をしている」97.4%、「自分で考えた勉強をしている」74.4%、「勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組んでいる」74.4%で市や県を上回っている。家庭での学習、自主学習への習慣が身に付いてきている。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」74%、「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」71%で県や市の平均を上回っている。これは、根気強く、あきらめないで学習しようという意欲が見られる。

●「自分は勉強ができる方」41%、「自分には良いところがある」56%、「自分はクラスの人役に立っている」33%と県や市の平均と比較してもかなり下回っている。このことは、自己有能感や学級への所属感が低いと考えられる。今後は、学級の係活動や当番活動を通して、子どもたちが活躍できる場を多く設けるなど、意識や生活の向上を目指していきたい。

●人と話をすることは、楽しいと9割以上の児童が答えているが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」41.0%で県53.2%市54.2%を大きく下回っている。グループなどでの話し合い活動などの場を学習や生活の中で多く取り入れ、個々の良さを認め自信を付けさせていきたい。

●「分からないことをインターネットや地図帳を使って調べている」は市の平均を下回っている。「社会や理科の内容を扱っているテレビを見たり、本を読んだりするのは好き」という児童は市の平均を上回っているため、知識を得ることは好きだと考えられる。このことをきっかけとしてパソコンや地図帳で調べるためのスキルを身に付け、分からないことを自分から解決しようという意識を高めていきたい。